

大東町海潮地区 [海塩幼稚園について]

Q219 [預かり保育への支援について]

海潮幼稚園預かり保育について、雲南市では今年度9月から数か所で預かり保育が開始されると聞いているが海潮地区ではすでに振興会で実施している。保護者からは、地元で育てられることがとても喜ばれていて、運営においてはこれまで地域振興補助金などを活用しながらいろいろな体制

整備を進めてきた。雲南市には光熱水道費等の財源のお手伝いもしていただいているが年間通して行うには、少子化傾向にあり、とりわけ夏休み、冬休みの運営については預かる子供が少なくなり困っている。ほかの幼稚園でも実施されることになれば、「うしおっ子ランド」についても同じようにさらなる支援をお願いしたい。

A

海潮地区地域協議会の預かり保育の取り組みは「地域の子供を地域で育てる」ということに関して、先駆的なものであり、敬意を表します。

雲南市による幼稚園の預かり保育が、こうした地域での取り組みを妨げることになってはならないと考えています。うしおっ子ランドの取り組みは地域による子育て支援のモデルとなるものであり、持続可能な経営や、保護者の負担軽減、保育機会の均等確保等の観点から、人的または財務的な支援方策について検討します。（教育委員会）

Q220 [園付近の歩道橋設置について]

海潮幼稚園は中学校と川を挟んで対岸にある。幼稚園の駐車場は狭くて民間の土地を振興会で借りている。対岸の中学校駐車場に向けて歩道橋を設置して活用できれば避難場所として、また海潮祭などの地域イベントの核として使用する中学校施設と幼稚園との連携が取れることになる。ぜひ歩道橋の架橋をお願いしたい。

A

幼稚園の避難用歩道橋の設置について、現在地区振興会が経費の負担されている土地を職員が駐車場として使用させていただいていることにお礼を申し上げます。

ご指摘のとおり対岸までの歩道橋があれば避難経路として、また学校施設の有効利用など効果的な連携が図られると考えます。今後、幼稚園の現場と協議を進めます。（教育委員会）

Q221 [関連質疑]

子育て支援事業、避難橋の設置について、現在の社会は犯罪が多い、海潮地区は子育て支援など取り組みを進めて、幼少中の触れ合いを大事にしている。中学生の子供が幼稚園のこどもと接することも大事だと思う。これらのためにも避難橋を実現してほしい。

A

最初に教育委員会がお答えしたように、「うしおっ子ランド」など模範となる活動に敬意を表します。

雲南市が実施する預かり保育は大東、木次、三刀屋 3 園で 5 歳児の預かり保育を試験的に実施する予定です。海潮地区のこれまでの流れの中で、人的財政的な支援については他の試験的実施の 3 園と同じ体制がとれるよう支援をしたいと思えます。避難橋の提言について重要性を十分に認識しているので協議していきたいと思えます。（教育委員会）

大東町海潮地区 [幼・小・中の適正配置について]

Q222

雲南市立幼少中の適正配置問題について C A T V で放送があったが、ここのところで最終答申があって議会で説明がされるそうだが、かいつまんでその内容を教えてほしい。また海潮地区ではどうか、子供たちにはもうすぐ大東中学校に行くのではないかと、中学校が小学校になるのではないかとわさしている。今の段階での確かな状況を聞かせてほしい。

A

昨年 1 2 月に最終の答申が出ました。雲南市では幼少中が 44 校ありますが、小学校は複式の学級がかなりあります。答申のまとめの中では、方針として、まず複式の学年のある学校について、また少ない児童数の学校について解消を図っていくことが出ています。

この答申を基にして基本計画を定める予定としています。児童数の少ない学校へは、この春に地

平成 21 年度市政懇談会（まとめ）

元説明、情報交換に出かけているところであり、基本計画の中で明確にします。
海潮小学校は 109 名であり今後も児童数が減る傾向にはなく、市内では比較的規模の大きい学校にあたります。答申の中の適正配置の問題に該当していません。小学校が中学校の施設へ移動する計画についてもありません。（教育委員会）

大東町塩田地区 [小学校の修繕について]

Q223

過去に危険遊具の調査があり、ボールの交換をしてもらい感謝している。その後、校長先生と学校を見て廻った時に、非常階段の足元が腐食していることに気付いた。耐震対策も大事だが、こうゆう所も見ておいてほしい。

A

危ない所から直していかなければなりません。調査をなるべく早く行い、できる範囲で直せるところからやっていきます。（教育委員会）

大東町阿用地区 [学校支援について]

Q224

学校支援が 3 年契約で切れるが、そのあとどうするつもりなのか。

A

学校支援について、今配置しているのは、地域コーディネーターです。
市内のすべての小中学校に、配置しています。平成 20 年に始まり、三年間の期間です。三年間が終わっても、地域の中にボランティア活動として、学校に関わって頂く方をお願いしようと思っています。この事業は、平成 22 年度まで続き、そこで基本的には打ち切ります。（教育委員会）

大東町阿用地区 [生涯学習の教材について]

Q225

小学生の生涯学習でヤマタノオロチ伝説巡りをやろうと思っている。場所を見て回ろうと思っても資料がなくてわからない。小学生が見ても分かるような資料が欲しい。それと、雲見の滝の遊歩道が閉鎖されている。これはどういうことか。

A

教育委員会で何が出来るかということで、夢発見プログラムを実施していますが、ご指摘の分かりやすいパンフレットは、検討はしていますが出来ていません。

雲見の滝も、その他たくさんの施設が大雪で雪害を受けました。六月補正で予算化し、対応したいと思います。ただし、木橋が傷んでおり、また倒木処理などもあります。今年度早い時期に復旧する予定です。（教育委員会）

大東町春殖地区 [校区問題の早期解決について]

Q226

この団地では、現在 18 戸の自治会だが、他の地域と異なり、小学校区が特別扱いとされていて、児童は同じ自治会から大東小学校、西小学校、佐世小学校の 3 校へ分散して通学しているのが実情だ。このたびの扱いでは最も先端に行く制度に見られる反面、春殖地区の市民活動を行うときに、地域振興や組織の一体化を損なう、乱気流に惑わされるほどの困惑と校区問題に関する行政力に疑問があるのも事実だ。

具体的な問題としては、自治会のまとめ方、子供会のあり方、PTA 活動のあり方、体育協会や小学校教育後援会の所属、地区民体育大会への参加問題など校区問題から波及する多くの問題が生

じてくる。

このことは該当する自治会だけでなく、新しい住宅団地形成の意義と望ましい市民生活とのギャップ、そして春殖地区の市民活動や地域活性化の面で春殖地区全体の大きなストレスになることについて、市長や教育委員会がどのように認識され、何時までに解決していただけるか伺う。

校区問題と望ましい市民生活との整合性について、再度検討いただき、適切で迅速な対応をお願いしたい。

A

ふれあいの丘校区問題について、校区は西小としてスタートしましたが、佐世（地区）から異論が出ました。柿坂地域に住宅団地が予定されたときから、小学校は佐世に近いことは分っていました。このため、入居者の希望を聞くことも校区決定材料にせざるを得ない状況でした。

ただ、いつまでも放っておけない問題であり、ある時期にどちらかに決めなければならない問題です。仮に春殖地区の方向で（結論を）出すとなれば、佐世（地区）の意見もしっかり聞いた上で、無条件に聞き入れてもらわなければ話しが前に進まないと思っています。

地域と校区は一緒になければいけないと考えています。地域は、柿坂の隣りだから春殖地区。従って校区も春殖。反対に、地域は佐世、校区も佐世と言われれば、同意せざるを得ません。

まもなく、入居者が半数近くになります。この時点で結論を出したら、理解をして頂くようお願いします。（市長）

Q227 [関連質疑]

（校区の決定は、団地にほぼ）半分の入居があった時点で決定とのことだったが、校区と行政は一緒にするという考えか。

A

前提条件が柿坂の隣りであるということです。春殖（地区）の一角であることも尊重されるべきです。先ほど申し上げたことは、あくまで前提条件を考えた上でのことです。

（団地が）佐世小に近いことは、紛れもない事実であり、そのことは（佐世地区も春殖地区も）確認されています。自治会も佐世が良いと出たら無視できません。

西小が良いということなら、佐世（地区）の言い分も充分聞いたことになっていかななくてはなりません。西小で良いと言われるなら、それはもう西小で納得してもらわなければなりません。

（市長）

Q228 [関連質疑]

ふれあいの丘団地は、現在自治会を組織され、春殖公民館へ加入を進めておられる。

春殖には、駅前が春殖であるにも関わらず、大東小学校へ通学している経過がある。当時、大東小は学校が大きかったこともあり全員大東小学校へ行った。市長に、春殖にはこう言った地域を抱えていることを理解しておいてもらわないと困る。要は、統一された意見で取りまとめられる必要がある。

Q229 [関連質疑]

現在（通学する小学校）は、西小、大東小、佐世小とばらばらである。

市長が言われるのは理想に過ぎない。大人の付き合いがバラバラだと子供の健全育成には繋がらない。馬田寺の問題も残っているが、馬田寺は、後期から春殖へ通学するように考えておられる。問題は、子供が絡（から）む問題であり、なかなか解決しない。自由な中にもルールが必要だと思う。若い人が入居しているかもしれないが、ずっと自由というのは考えものだ。大事なことは健全育成であり、豊かな心が豊かな地域をつくると思っている。春殖は困っているので、また教えて頂きたい。

A

雲南市も都会化しつつある状況です。松江市の白潟などは、A小、B小と入り乱れています。

平成 21 年度市政懇談会（まとめ）

駅前、自治会として困っておられる現実があるものと思っています。出来ることなら、地域と学校が一致した方が良いと思います。

踏み切りの所までバスが行きますので これをもっと伸ばして西小へ通わせようと思っています。やってはならないこと、それは保護者の考え方を転嫁することです。地域と校区は一緒が良いと思いつつ、今しばらく時間を下さい。（市長）

大東町佐世地区 [地区運動会での出校日の扱いについて]

Q230

地区の運動会に小学児童が参加した場合、出校日扱いになる学校とならない学校がある。取り扱いの平準化をしたと聞くがその見解はいかに。（具体的には暫定自由校区である「大東ニュータウンふれあいの丘」においては、佐世小学校は自由参加で休日扱いであり、西小学校は出校日扱いで代休がある。）

A

西小学校校長に実情を聞いたうえで、見解を回答します。（教育委員会）

（保留分回答：教育委員会）

学校の出校日については、合併前の大東町において地区の運動会への児童の出席について、学校行事ではないので出校日としないという申し合わせがあったと聞いていますが、雲南市では各学校の出校日は基本的に各学校長が決定することとしています。

大東ニュータウンの校区の扱いについては、現在西小学校と佐世小学校の選択制とし、入居者が半数に達した時点で決定するという方針です。

仮にどちらかに決定した場合でも、学校と地域の関係ではいろいろな面で課題があります。

そのことについては、行政として対応しなければならないと考えています。

大東町佐世地区 [給食実施期間について]

Q231

保護者の負担を考えると、給食期間は、始業早々から終業間際まで対応してほしい。

A

給食実施は、例外はあるかもしれませんが、ぎりぎりまで実施しています。（教育委員会）

大東町久野地区 [幼稚園・小学校の統廃合について]

Q232

幼稚園 8 名、小学校 24 名であり、近い将来統合問題が浮上してくると思うが、市の方針はどうか。

A

平成 18 年 12 月に幼稚園小学校適正規模適正配置検討委員会を立ち上げ検討いただき、平成 19 年 11 月に中間答申をいただき、平成 20 年 12 月に最終答申をいただきました。

その中で、児童数が 15 名未満の極小規模校及び園児数が 10 名未満の極小規模園について、一定規模の児童数・園児数を確保するために再編統合を視野に入れる必要がある答申をいただいています。

教育委員会では今年度中に方針を示す予定にしており、小学校・幼稚園は地域にとって重要な施設であり、地域住民の皆様や保護者の皆様の理解を得るのが最も重要であり、今後早い時期に意見交換会を開催し、今年度末までに基本計画を策定したいと考えています。（教育委員会）

平成 21 年度市政懇談会（まとめ）

大東町久野地区 [夏休み中のプール開放について]

Q233

小学校の夏休みのプールについて、なぜ保護者の見張りが義務付けられているのか伺いたい。私も孫の面倒をみている。先生は出勤しているが、プール指導もなく何をしているのか。私の感覚と違ってきており、近頃の学校の姿を見ると残念に思える。

A

授業での水泳指導については教諭が指導しますが、夏休みのプール開放については、授業ではありません。したがって、監視について保護者の皆様の協力を得ながら開放しておりますのでご理解をお願いします。

夏休みの中の学校は、日直が出勤しており全ての先生が出勤している訳ではありません。島根県教育委員会が開催する様々な研修会等に出席していることもあります。

Q234 [関連質疑]

授業は黒板だけで行うのではなく、遊ぶことも話すことも授業ではないのか。学校にいる時間だけが授業ではないと思っている。私の感覚と違ってきている。

A

子どもたちにとって、学校だけが授業ではありません。学校を出ると地域の皆様に育てていただいていますし、授業でも地域の方に教わりながら、地域をあげて教わっています。（教育委員会）

大東町大東地区 [食育推進についての市長の考えについて]

Q235

食育推進全国大会が先月 2 日間、くにびきメッセで開催されて 15,000 人の参加あった。この中で、パネルディスカッションで全国レベルの講師の中へ速水市長も参加され「食育、健康、食育地域活力」について、食の産地では雲南市といったことを発表されたが、市長の意気込みは、

A

今年 3 月に、食育推進計画を策定しました。目的としては、食事が一番大切なことで、あらゆる病気の源が食事にあると言っても過言ではない状況の中、これから時代を担う子供達の食生活を備えるため食育推進計画を策定しました。

具体的には、子供達を対象とした取組みとして「弁当の日」を設けました。これは、夢発見プログラムを平成 19 年に策定しているいろいろな体験を通して自分達の考え、子供達が世の中を行ききする中で、自分達の生き方を手探りしようということです。

一つは自分達で弁当を作って学校へ持っていき、自分達で弁当を作ることによって「この野菜は、どこで売っているのか」というところまで入って行って、物を作る大切さ、農家の皆さんの努力とか、実際どうやって作られているのか、苦労を知ることにもなりますし、どういう流過程を通して自分の口に入ってくるのか、弁当を作ることによってお母さんや家族が毎日弁当を作る大切さを学ぶこととなります。プログラムを通じて実感を作る、実践「弁当の日」を作りあげました。

今度は、食育推進計画を立てて、この中で「弁当の日」を取り上げましたが、それを雲南市の計画で取り上げたことにより、教育の問題から物作りの大切さ、すばらしさまで勝負していきます。

自分が好きなことを取り上げて、喜びを見出しながら自分の人生を考えつつ、小さい時から植え付けながらも方向性を生かしていき、食育推進計画を通じて人づくりを進めていきます。

人づくりの大きさは、雲南市の要請だという方向に食育計画を意味するところを位置づけたいと考えています。（市長）

平成 21 年度市政懇談会（まとめ）

大東町大東地区 [大東小学校建替えについて]

Q236

大東小学校校舎の建替え工事が急転直下で行われることになり感謝している。
しかし昨今のテレビ、新聞報道で補正予算の執行の停止・凍結等あげられているが、そうしたことが発生した場合に建設工事が予定通り実施できるのかどうか伺いたい。

A

大東小学校校舎の老朽化に伴い、建替えを国の経済対策で行う考えで出来るだけ早く実施したいと考えています。

間もなく内示が出ますが、政権が変わっても変更はないと考えていますが、もし廃案・凍結となれば計画倒れになります。そうならないよう、現在国へ確認している段階ですので、今しばらく時間をいただきたい。とにかく内示があった分については、計画通り事業が確実に実施できるよう努力していますが混沌としている状況です。（市長）

加茂町加茂あかがわ連合会、加茂中団地 [教育支援コーディネーターについて]

Q237

教育支援コーディネーターについて、加茂では当初の配置から 2 年のところで人事異動によりコーディネーターの変更があり、今年度もまた変更があった。今後も継続的に事業運営をしていくうえでは、人事異動についても地域にあった方法をとってもらいたい。

A

教育支援コーディネーターについては、やむにやまれぬ事情があり異動があった経過があるが、地域のご理解をいただいたうえで今後の支援にあたっていきたいと思います。（市長）

加茂町中村・昭和・星野・雲並、東谷、砂子原、中村団地、東谷団地 [部活動について]

Q238

中学校では、サッカー部がない。自主的にはスポ少があるが、クラブでも部活でもなく、公式試合ができない。

A

部活動は教育外の活動であり、教育委員会では指導できません。校長先生と話し合っていたきたいが、子どもが減少していく中で部活動を増やすのは難しいと思います。（教育委員会）

木次町三新塔地区 [地域コーディネーターについて]

Q239

木次中学校に出雲市から教育地域コーディネーター 2 名が来られたが、雲南市にはそういう人材はいないのか。

A

地域コーディネーターについては、地域の大人が社会教育の立場から学校を支援し、学校環境を整備する役割で、学校の要望に応じて配置しています。

学校支援地域本部事業として 3 年計画で平成 20 年 7 月に開始し、市内全小中学校に 30 名配置しています。教育委員会が委嘱しますが、人選は校長に任せています。人材がいなくてもいいのですが、この事業を始めて間もないため人選に苦労された経緯があります。（教育長）

木次町斐伊地区 [教育環境整備について]

Q240

近年、幅広い教育の推進の中、支援体制が拡充される一方で空き教室がないなど校舎が狭隘とな

っている。その上、体力の向上と健全な心身の育成に欠かす事の出来ない体育館は、耐震強度や雨漏り等の早急な改修が必要となっている。

また、幼稚園施設においても斐伊幼稚園は、園児40名と市内で4番目に園児が多いにもかかわらず、各教室や遊戯室、職員室等が狭隘であるとともに、保健室や男性用便所もない現状だ。また、園庭については雲南市内幼稚園のなかでも西日登幼稚園に次いで狭く、かけっこをしたり、のびのびと遊べる環境にない。

雲南市では、故郷を愛し豊かな心を育む教育と文化の町づくりを基本的な考えに「子育て日本一の雲南市」を提言されている。

財政状況が厳しいから出来ないではなく、将来に向けて早急に計画を立てていただきたい。

A

雲南市の学校施設については、平成20年度までで対象となる全ての施設の耐震診断を終えており、小学校では10校で15棟、中学校では2校で2棟の施設の耐震補強が必要であるとの結果が出ています。その中の1棟が斐伊小学校の屋内運動場です。幼稚園については、16園全てが昭和57年以降に建設された施設であり、耐震補強の必要はありません。

雲南市では平成20年度より耐震性の低い施設から優先的に補強工事を行っているところです。平成20年度に1棟、今年度は4棟の耐震補強工事を行う予定です。斐伊小学校の屋内運動場の補強工事については未定ですが、来年度以降で計画を立てていく考えです。

また屋内運動場の雨漏りについては、平成19年度、20年度に修繕工事を行っており、今年度も点検を行って枯葉等の撤去を行っており、現在のところ雨漏りはしていないと認識しておりますが、昭和50年建設であり、かなり年数が経過していますので、耐震補強工事に合わせて修繕工事も行っていく考えです。

幼稚園は昭和57年に建設され、平成15年に保育室の増築と昇降口の設置を行っています。市内の学校施設では昭和30年代、40年代に建設された施設もあり、耐震性の面で危険な施設もあることから、そうした施設を優先的に改築あるいは耐震補強を行っていかねばなりません。

よりよい教育環境の整備を行うことは大変重要なことであると考えています。しかし改築あるいは耐震補強はもちろんですが、その他の修繕工事についても、全てを短期間に行うことは困難であり、どうしても計画的に行わざるを得ません。雲南市では、まず児童・生徒の安全の確保を優先して施設整備を行っていく考えですので、ご理解をお願いします。（教育委員会）

木次町八日市地区 [木次幼稚園・小学校・中学校の後援会負担金について]

Q241

雲南市の財政状況は年々厳しく、それぞれの歳出を削減せざるを得ないことは理解しているが、未来を担う子供たちの教育の場である学校に対しての助成については、少なくとも備品や消耗品、修理費用等日常必要なものは購入できるような予算配分をお願いしたい。

また、後援会負担金は過去から数十年継続されているとのことだが、評議委員会、学校サイドからは立場上言えない面もあると思うので、敢えて1自治会の提言として申し上げたい。

自治会からの助成については、反対ではなく子供たちの将来への投資、教育の充実ができるような使途にできればと思う。

A

各小学校や中学校の校区内の皆様には、合併以前から学校後援会または教育後援会として、地域の学校に対して多額のご寄付によりご支援いただいておりますことに対しまして、深く感謝申し上げます。

ご指摘のとおり、学校施設の維持管理、学校運営・管理経費は、行政が負担すべきものと考えて

おり、予算に計上をしています。

しかしながら、限られた枠配分予算の中でありまして、必ずしも十分な予算を確保しているとは言えないのが現状です。

学校にかかる経費については、十分な予算を充てるべきとは考えますが、厳しい市の財政状況をご理解いただき、今後とも後援会の皆様には、子どもたちの教育に必要な側面的な援助として、ご支援いただきたいと考えていますので、ご理解とご支援をいただきますようお願いいたします。

（教育委員会）

木次町西日登地区 [幼稚園、小学校の統廃合計画について]

Q242

幼稚園、小学校児童数の減少について、幼稚園、小学校の統廃合計画はどうなっているのか。小学校は地域づくりの核であり現状維持のためにすることはないか。校区への住宅団地や W I ターンなどの対策などが必要だ。

A

「雲南市立小中学校及び幼稚園等適正規模適正配置検討委員会」を設置し、地域住民アンケート、教職員アンケート等によりあるべき学校規模や配置について検討し、平成 19 年に中間報告を、平成 20 年に最終答申をいただいております。

その中で、全校児童が 15 人未満であれば極小規模校、幼稚園児が 10 人以下であれば極小規模園となり、統廃合を含めた検討を進めることとしています。大東町の塩田小学校が 10 人、吉田町の民谷分校が 8 人でこれに該当します。幼稚園については久野、阿用、飯石、中野幼稚園が極小規模園に該当します。保護者とも意見交換をしており、幼稚園単独では統合ということにはならず、小学校と合わせて考えざるを得ないのではと思っております。

西日登小学校については、まだ児童数が多く統廃合はありません。これからこういった対策を行うのかということですが、住民の役割、市の役割は様々であり、働く場の確保、企業の誘致、産業の創出、結婚対策、交流人口の拡大等、市民と行政一緒になって取り組んでいく必要があります。

（教育委員会）

木次町西日登地区 [文部科学省の放課後子ども教室推進事業補助金について]

Q243

先般の新聞で地方再生の補助・交付金、国の使い残しが 5 6 0 億円あるという見出しが出ており、補助金を受ける自治体の負担金が準備できない、または地域のニーズに合っていないということが書いてあった。その中で文部科学省の放課後子ども教室推進事業補助金が 6 4 % で一番多く残ったということだが、雲南市は法定いっぱいの補助金をもらわれたのか。補助金を多くもらうということは雲南市の経済状況に影響するのではないかと思う。

A

当新聞記事は昨年県議会でも大きな問題として取り上げられ、ある市はかなり不要額を出し国・県に返還しましたが、雲南市は 99.6% の補助を受け、ほぼすべて使い切っております。

昨年、西日登（地区）は、西っこ広場、スポーツ少年団、TEAM 輪音天咲の活動などに 62 万円弱を負担させていただきました。

雲南市では、負担金を払ってでも地域で子供を育てるということで当事業を進めていきたいと考えております。（教育長）

平成 21 年度市政懇談会（まとめ）

木次町新市地区 [教育について]

Q244

教育について法制度の改正があるが、一般的に条件整備が不十分で（日本の）教育費は先進国では低いほうだ。市では、地域コーディネーター、統括官、専門官等を入れて積極的に条件整備進められており素晴らしい。小学校の語学については、担任がしており負担大きい。フィンランドは専門の語学教師が入っている。

A

コーディネーターの設置については継続していきたいと思います。小学校の英語（教育）について、明日から南アフリカからの外国語講師が 1 名増員になる予定です。（教育委員会）

木次町新市地区 [教育予算と教育後援会の在り方について]

Q245

教育予算と教育後援会の在り方について、後援会の総会時に学校の壁と樋と修繕するという説明があったが、後援会が修繕費を出す必要があるのか疑問に思った。後援会は善意で行うもので、学校の備品を揃えるものではなく、後援会の予算は教育の充実に使ってほしい。市議会議員にもお願いしたい。市の設備費予算が小学校に 20 万では少なすぎるので、精査してチェックし、増額してほしい。また学校の耐震補強を早急にしてほしい。

A

備品については本来行政が負担すべきものと考えてはいますが、予算が限られた枠配分であり、各学校から毎年多額の要求が上がりますが一部にしか付けられない実態があり、そのため後援会にお願いしております。今回の経済対策により 1 億 1 千万円の教育費（予算）が付きましたので、木次中学校は雨樋修繕、通級教室のエアコン修繕、2 階渡り廊下サッシ取替えを計画しています。

耐震化については急がなければならないと思っています。平成 18 年に耐震化の優先度調査をし、数値が低いところを優先に改修しています。（教育委員会）

木次町温泉地区 [幼稚園・小学校の統廃合について]

Q246

平成 19 年度の突然の温泉幼稚園休園により地区住民全体に大きな衝撃を与え、地域住民は大きな不安を抱えている。地域要望がなされないまま完成しようとしている尾原ダムも当地区の少子化に何らかの影響と影を与える可能性があり、地区住民の心配は尽きない。

その後「小中学校及び幼稚園等適性規模適正配置検討委員会」が設置され議論がなされているが、前述のような事態が再度いつ出されるか分からない不安の中で、入学・入園の時期の子供さんをお持ちの方の不安は特に強い。また、このような課題を抱える地域に子供を置いてみよと思う人もいないのではないかと。

このような問題を発生させた行政の責任は重く、いち早く不安を払拭するような施策を早急に示し、安全・安心で住みやすい地域と地区住民が思えるよう早急に取り組んで頂きたい。

A

平成 19 年に幼稚園を突然休園したことは大変申し訳ないと思っております。再開時の説明にて、園児が 3 名おられれば幼稚園を存続すると回答しており、その考え方は変わっておりません。

昨年 12 月に「雲南市立小中学校及び幼稚園等適正規模適正配置検討委員会」の答申が出され、園児が 10 名以下の幼稚園は「極小規模園」として統廃合を含めた解消を図ることとなっています。

教育委員会ではこの答申を受け、教育委員による検討を進めています。仮に極小規模幼稚園の統廃合が検討された場合も、温泉幼稚園の場合は 2 名以上園児がいれば存続する考えです。地域住民の不安を払拭する施策について、少子化の解消に有効な施策については難しいのが現状です。

温泉以外にも市内に極小規模園は存在しており、園児は増えることはなく減る一方です。これに対する有効な施策は教育委員会として打ち出せておりませんが、学校で子どもが良い環境で教育を受けることを一番に考えております。園児数が多い・少ないということだけでなく、より良い方法を見つけていきたいと考えております。（教育委員会）

A

平成 19 年の閉園対応についてはお詫びを申し上げます。幼稚園のあり方については、地元と協議してきましたが、園児 1 名では本人がかわいそうということで、2 名以上であれば開園を継続することになりました。

こうした課題の解消について、どうすれば園児数が増えるのか、ということに対しては様々な問題があります。尾原ダムの完成によるダム湖を活用したボートコースの設置により、継続的な大会の開催を通じ多くの方に来てもらえる地域づくりを市としてももしっかり対応していきたいと思えます。自転車競技も賑わいづくりのインパクトになります。

国道 314 号線沿いに道の駅、農家レストランをつくり、多くの来訪者を見込む計画が進みつつあります。交流人口の拡大が定住人口の拡大に繋がれば、と期待しているところです。これらは地域と力を合わせてやっていきたいと思えます。ダム湖を生かした施策が進められるかどうか大きな課題です。（市長）

Q247 [関連質疑]

小学校問題について、適正規模適正配置検討委員会の答申ではまず複式学級の解消を言っている。極小規模について幼稚園は 10 名未満、小学校は 15 名未満ということだが、温泉小学校は現在 24 名である。温泉幼稚園は現在 5 名で、2 年後には極小規模ぎりぎりになると思われる。平成 19 年に適正化の配置のルールはそのまま適用しないという市長の話があり、幼稚園は 2 名以上いれば閉園は考えないということだったが、小学校については具体的にどういう考えか。

A

小学校が何人かということは、現在教育委員会で議論しており数字をはっきりお答えすることはできません。適正規模適正配置検討委員会で議論され答申にまとめられておりますが、人数の多い少ないで良い面悪い面があり、一概に少ないから統合するというのは市の面積や地域事情により難しい面もあり、地域住民や保護者等と十分に話し合いをさせていただきその上で計画を立てていきたいと思えます。（教育委員会）

三刀屋町中野地区 [幼稚園・小学校の統廃合について]

Q248

小学校、幼稚園の児童数が年々少なくなっている。小学校、幼稚園をいつまで継続してもらえるかお聞きしたい。人口・世帯数も減っていくなかで、どのように運営されるのか。若い方も街部へ出られる体制になりつつある。

A

平成 18 年から適正規模適正配置検討委員会を作って検討していただきました。昨年 12 月にその回答をいただき、小学校については 15 人以下の学校、幼稚園については 10 人以下の園は統合も含めた検討をすとなっております。

現在、小学校では大東の塩田小学校と吉田の民谷分校の 2 つが 15 人以下です。幼稚園については中野幼稚園、飯石幼稚園などが検討に入っております。すぐ統合ということではなく、今後、地域の方がどのように希望されていくか話し合ってもらいます。

まず、保護者の方にご意見を聞きながら今年中に教育委員会で方向を出します。方向を出したものをまた地域に戻してさらに検討していただき、最終的に来年の春までに結論を出していきたいと考えています。（教育委員会）

平成 21 年度市政懇談会（まとめ）

三刀屋町鍋山地区 [三刀屋中学校建設について]

Q249

三刀屋中学校が改築され際にはぜひ、地域の意見を十分に聞いて、素晴らしい中学校が建設されるよう検討してほしい。

A

緊急経済対策を活用して、当初の予定を早め今年度と来年度で建設します。

現在、建設委員会を各方面の方（約 20 名）にお願いしているところです。地元の連合自治会長、公民館長、中学校・小学校・幼稚園 P T A の会長などの皆さんに入ってください、皆さんの声をきいていきたいと思います。

非常に短期間ではありますが、8 月いっぱいまでのところで意見を聞いて、10 月には設計ができるようにしなければいけないと考えています。（教育委員会）

Q250 [関連質疑]

子供の数が減っているが、改築後に教室が余るとかのないようにお願いしたい。

A

小中学校及び幼稚園適正規模適正配置検討委員会を設置し、検討していただきました。木次中学校との統合の話もありましたが、最終的には別々に建てたほうが良いと（アンケート結果も含めて）という答申をいただきました。

今後、皆さんの声を聞きながら建設しますが、お金も全てが補助金というわけにもいきませんので他にも有効的に使いながら努力していきたいと思います。（教育委員会）

三刀屋町飯石地区 [三刀屋中学校改築に伴う備品の整備について]

Q251

三刀屋中学校が改築されると聞いた。校舎は市で整備されるが備品は整備してもらえないとのこととで寄付の話も出ている。本来の進め方として全て行政が準備をするのが本当ではないのか。

A

中学校の改築については、国の臨時経済対策の交付金を使うという有利な財源だったので急遽平成 21 年と 22 年度に建設することとなりました。

備品については、基本的なものの備品は整備しますが、すべてをとということにはなりません。当然、現在の備品はあるので買い換えることはありません。ご理解をいただきたいと思います。（教育委員会）

三刀屋町一宮地区 [三刀屋中学校建設について]

Q252

中学校の建替えは良いことだが、最近の少子化でどんどん子供の数が減っており、1 学年 2 クラスとなっている。こじんまりとした学校で、みんな和気藹々で良い雰囲気はあるが、学力の面では競争意識の低下でだんだん下がっていくのではないか。小学校は地域にあったほうが良いが、中学校は 4 ~ 5 クラスで、競争意識を持たせたほうがよい。

A

適正規模適正配置を平成 18 年度から検討してきました。その中で三刀屋中学校と木次中学校の統合も合併ごろから検討はされてきましたが、アンケートを実施し、検討委員会を重ねていく中で、統合せずに別々に建てたほうがよいとの最終答申をいただきました。

確かにクラスは多いほうが良いとのご意見もありましたが、三刀屋中学校については単独で建てていくことになりました。（教育委員会）

A

統合して大規模な学校とすると、雲南市で考えると、3つか4つでよいのかもしれませんが、長期的な選択で、掛合小学校の例をみると、統合までに10年くらいの期間がかかっています。

木次中学校との統合を検討したとしても、5年から10年以上はかかってしまうのではないかと、こういうことも踏まえ、統合はしないとの判断となりました。

建て替えが終わるのは10年から15年先になるというわけにもいかないため、三刀屋中学校は単独で同じ敷地内に建築することにしました。（市長）

三刀屋町三刀屋地区 [三刀屋中学校改築に伴う備品の整備について]

Q253

三刀屋中学校の改築が決定したことは、地元としては大変喜ばしいことだ。これの備品整備も必要であり、当然住民へ寄付金を求められると思うが、経済状況が悪く景気回復も望めない中、定額で強制的な寄付集めはやめていただきたい。古いものでも使える物は、再利用して大切に使ってほしい。

A

教育委員会では、寄付を集めることはありません。ご指摘のように既存備品については基本的に全て利用する考えです。

H19年から期成同盟会を作って活動しておられますが、今回はその期成同盟会の方から寄付を集めてはどうかということが言われているようです。有志で集めて寄付をされることはあるかもしれませんが、強制ではありません。

ご協力いただけるなら、期成同盟会の方に協力を頂きたいと思います。（教育委員会）

吉田町吉田地区 [学校の適正規模適正配置について]

Q254

学校の適正規模適正化について、児童数が減っていく中で親の気持ちは複雑なものがある。早めの結論をお願いしたい。

A

子どもたちのために何が必要か考えていかなければいけません。今後、地元と合意形成を図っていきます。（教育長）

Q255 [関連質疑]

児童・生徒が減少する中で学校施設がどのようになるのか。

A

小中学校及び幼稚園等適正規模適正配置検討委員会において、平成18年12月から2年間に渡って検討され、平成19年11月に中間答申を、また平成20年12月には最終答申をいただきました。

最終答申は市ホームページにも掲載していますが、「極小規模(児童数15名未満)の小学校及び極小規模(園児数10名未満)の幼稚園の方向性については、一定規模の児童数(幼児数)を確保するためには、統合再編も視野に入れる必要がある」とされています。

教育委員会ではこの答申を受け、平成21年度中に方向性を示すこととし、教育委員会(委員6名)において協議を進めており、先般4月15日の教育懇談会での検討状況をケーブルテレビ番組に収録し、5月の連休明けや6月中旬にも放映したところです。

また、学校や幼稚園は地域にとって重要な施設であり、地域住民の皆様や保護者の皆様の理解が最も重要であることから、答申に示された極小規模の学校及び幼稚園の今後の方向性について地域と協議を進めていくために、その進め方について協議を行っているところです。

平成 21 年度市政懇談会（まとめ）

これまでの意見としては、まず保護者の意見を聴いて欲しいということから、PTA 及び保護者会の役員さんに日程調整をお願いしているところです。

今後、地域との意見交換を基にした基本計画（案）を策定し、この基本計画(案)を基に再び学区(地域及び保護者)との意見交換を実施し、平成 21 年度中に雲南市及び教育委員会としての基本計画を策定する予定です。（教育委員会）

掛合町多根地区 [掛合小学校の校庭について]

Q256

掛合小学校の校庭の問題。去年の（市政懇談）会の際には、22 年度には、（三刀屋高校）掛合分校を廃止するかどうかを決めるということであったが現状はどうか。

A

校庭問題については、基本的には昨年の回答と状況は変わりありません。

今も宍道の入学状況で掛合分校の方向性を決めるという方針が変わっていないと聞いているので、それについては変わっていません。（教育委員会）

Q257 [関連要望]

校庭がない、鉄棒がないということで、児童の体力が落ちてきている。逆上がりが出来ない子供がほとんどであるという話も聞く。そういったことをどうやってカバーしていくのか、できないならそろそろ別な考えをもたなければならないと思う。地元も何らかの方法で協力できるようであれば協力しなければならないと思う。

Q258 [関連要望]

（旧多根）小学校の黒板に子供の想いが綴ってある。掛合の学校へは行きたくない、多根の学校がいいということをほとんどの子が書いている。そういう思いをしているということを考えて一日も早く校庭を作って体力をつけてやって欲しい。

A

（要望等を）重く受け止め、精一杯のことはさせていただきたいと思います。（副市長）

掛合町松笠地区 [掛合小学校の校庭について]

Q259

議会の一般説明を聞いていると、旧掛合町の中で決めてしまったことだと責任転嫁のようなことになっている。建設されるようになったのは市になってからだ。（三刀屋高校）掛合分校はなくてはならないものだ。分校と旧小学校の等価交換を行って、分校を下におろしたらどうか。

A

掛合小学校校庭問題は、暗礁にあがっています。これで良いとは思っていません。建設委員会を立ち上げみんなで良い校舎を作ろうと進められてきました。2 階建にすれば十分ではないが校庭が作れる状況でした。合併前の 9 月に答申があり、市に引き継がれました。

県は募集定員が 5 分の 3 になった場合、あるいはそれを待たずに高校を統廃合するとかかなり強硬でした。後期の再編計画が終わり 20 年には示されるだろうと思っていました。

現在、高校とグラウンドの共存を図り、PTA とも会議を開きながら行ってきています。

高校と旧小学校の等価交換ということですが、子どもたちが新しい学校で希望を持って頑張っています。その逆を考えると教育的な配慮が必要です。また小学生用の施設であり、高校生にはマッチしません。今在学している生徒の教育的な配慮として慎重に考えていかなければなりません。

（教育長）

平成 21 年度市政懇談会（まとめ）

掛合町松笠地区 [食育について]

Q260

食育は文化のひとつ。偏食、アレルギー体質の子どもがいる子への対応が必要だ。月 1 から 2 回のバイキングを取り入れた給食の実施はどうか。

A

経費的、設備的な問題からバイキングの実施できる段階ではありません。ただし、希望献立があり、子どもの希望で数種類選べるということは実施しています。アレルギー対応ということで一部の給食センターで実施しています。（教育委員会）

掛合町松笠地区 [特別支援学級の充実について]

Q261

全国統計で発達障害は 6 % あると言われている。また ADHD などの学習障害もあるので、専門的な指導教諭の配置をお願いしたい。

A

特別支援教育の充実については、非常に重要な課題と認識しており、特別支援教育担当の指導主事を配置して対応しています。県では、にこにこサポート事業、学びいきき事業、非常勤講師の配置を予算の範囲内で対応しています。市では支援員を幼稚園に 9 名、小学校に 12 名、中学校に 4 名の配置をして対応をしています。（教育委員会）

掛合町掛合地区 [掛合小学校の校庭について]

Q262

掛合小学校のグラウンド確保についてお願いしたい。今のところ大きな事故も事件もなくきている。旧掛合小学校のグラウンドを暫定として使っているが、市道を横断しないと出来ない、先生が常についていないと行くことができないなど、子供たちの活動意欲が低下しつつある。体力の低下にもつながる。昨年の市政懇談会でも教育長の回答に、「掛合分校の募集停止を待つ」となっているが、保護者としては募集停止を持っていない。今後どのように対策を練っていただけるかお聞かせいただきたい。

A

保護者の方とグラウンドについて協議をしています。今の状況がいいとは考えておらず、どうにかしないといけないと考えています。以前県にどうなのか質したことがありました。その当時県として募集停止ありきという態度がありました。県への働きかけはしていますが、現在のところはっきりしていません。グラウンドの整備は現時点では困難です。来年宍道高校が開校し募集状況等見ておそらく多少の方向性が見えるだろうと考えています。子供たちが外で遊ぶ遊具の場所確保、設置など努力します。（教育長）

Q263 [関連質疑]

今の子供たちは、このまま卒業するとグラウンドがないところで育ったという思い出となる。今ここで保護者が頑張らないといけない。掛合小学校は 5 校を閉校し、統合した小学校だ。子供たちのためにと思い、掛合以外の 4 地区のみなさんは閉校に同意された。

だが、現在、子供たちのためにと思ったことが子供たちのためになっていない。保護者（PTA）も市との話し合い等意見交換の場を与えていただければ、積極的に参加したいと思う。

A

保護者の方と協議しながら、一定の方向性を出せたらと思います。（教育長）